

2019.1津久井幼稚園2012年度卒業生 ギャンビル ウィリアム海音くん 小学6年 神奈川新聞

2019年[平成31年] 1月22日[火]

神奈川新聞

2019年(平成31年) 1月22日 火曜日

ライフル射撃競技で、全国トップの実力を誇る小学生が横須賀市内にいる。昨年は上位入賞を重ねた。両親に支えながら、照準の先に見定めるのは、将来の「エアライフル」五輪代表だ。

(高本 雅通)

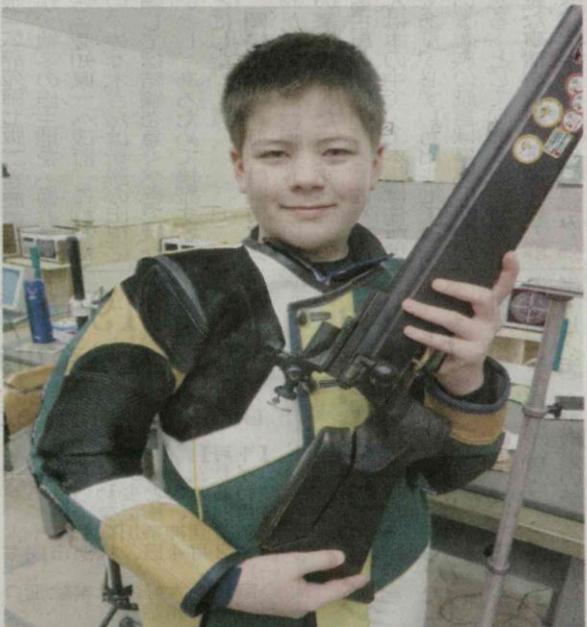
ビームライフル射撃 全国V
昨年10月に新潟県で行われた「全日本小中学生ビームライフル射撃競技大会」の小学生の部で優勝したのは、市立明浜小学校6年のギャンビル・ウィリアム海音さん(12)。くりはま花の国(同市久里浜)の射撃場に休場日以外の毎日、通っている。

ビームライフルは、ライフルから放つ電子ビームを10秒先の的に当て、得点を競う。五輪種目のエアライフルと違つて弾が出ないため、銃刀法の規制を受けず、年齢制限もない。

「全国から集まる上手な選手を見られるから大会は好き。勉強になる」とギャンビルさん。新潟での大会では618・2点を上げて

狙う的是は五輪代表

ギヤンビル・明浜小 久里浜で毎日練習
ギヤンビルさん 2位以下を引き離し、栄冠を手にした。小学生最後の大会を2月に控え、「自己ベストの620点を超えた。自分の勝負です」と意気込む。
米海軍所属の父と日本人の母を持つ。幼い頃からおもちゃの銃が好きで、小学4年の時にビームライフル



上分量さ4kg強のライフルを構え、的を狙うギャンビルさん

を考えている。体育協会などの推薦があれば、10歳からエアライフルを使用できる制度で、ギャンビルさんは14歳を待たずに練習や競技に参加できるようになる。「ビームは国体種目だが、する先輩もできて楽しい」海外では子どもの時から工アをやつている。なるべく早くエアに慣れておきたために「年少射撃資格認定」い。既に世界を視野に入れ、将来の目標を見据えて

両親は息子をサポートするため、全国でも恵まれたその練習場に近く、遠方の大會に出場するのに学校を休む際には公休扱いとする制

